

第20回一宮市地域公共交通会議

開催日時：平成28年9月28日(水) 10:00~11:50

開催場所：一宮市本庁舎11階 1101会議室

(一宮市本町2丁目5番6号)

出席者

※会長・・・◎副会長・・・○

◎吉田 有夫、○加藤 博和、青木 隆子、葛谷 昭吾、開現 幸夫、近藤 太康、加藤 絡、
加藤 英代、河村 富貴、近藤 博之、梅村 和行、日比野 孝雄、杉本 忠久、向原 宏、
加藤 政治、石屋 義道、熊沢 裕司、岩田 勝

事務局

皆さんおはようございます。第20回一宮市地域公共交通会議を開催させていただきます。皆様方には大変お忙しい中、また雨模様の中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。また、平素より一宮市行政の推進に当たりまして、格別のご理解ご協力を賜り厚くお礼申しあげます。私本日の司会を務めさせていただきます企画部次長の武田と申します。よろしく願いいたします。

本日は4月から8月までのiーバスや名鉄バスの「市内路線バスの利用状況」などを報告させていただきます。その後、協議事項といたしまして「iータクシー停留所等の一部見直し案について」と「iーバス尾西北コース 尾西運動場開明公民館停留所位置の変更案について」ご協議をお願いしたいと思います。

議事に入ります前に、資料のご確認をお願いしたいと思います。本日机の上に配布させていただきました資料ですが、委員の皆様の名簿、配席図、資料4-1の差し替え用として9月までのiータクシーの利用者数集計表を用意させていただいております。追加分としまして9月の停留所ごとの利用者数を記載しました地図がありますけれど、そちらとiータクシーの案内のチラシ、そして資料5-2の追加資料ということでiータクシー停留所の写真となっております。最後にニコニコふれあいバスのチラシの方も置かせていただいておりますので、よろしく願いいたします。それから事前に送付させていただきました本日の議事次第及び資料1から資料6でございます。不足の資料がございましたらお手

を挙げていただければ係の方でお持ちしますが、よろしかったでしょうか。

資料ではございませんが、卓上にペットボトルに入った水が置いてあります。こちらは一宮市の水ということで「おりひめ」という名称で販売をしております。木曽川の伏流水をペットボトルに詰めまして、木曽川が織りなす水という意味合いで「おりひめ」という名前がついております。極楽寺という地域の水源所から汲み上げられました原水に普通は塩素とか薬品などを加えて処理するのですが、こちらは加熱殺菌だけで処理を行ったナチュラルウォーターで、非常に飲みやすい水ということで今販売をしております。賞味期限も製造から5年ということで、災害用の備蓄飲料水としても利用いただけるということです。もしご入り用の方がありましたら販売しておりますので1本80円ですので、よろしくをお願いいたします。

それでは議題に移らせていただきます。この後の議事進行は会長をお願いをしたいと思います。吉田会長よろしくをお願いいたします。

会長

おはようございます。今朝は雨で足元の悪い中ありがとうございます。それでは今から議事を進行させていただきます。会議の進行につきましては、皆さん方には十分ご協議をいただきつつ効率的に議事を進めて参りたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、本日の議題は報告事項として「一宮市内バス路線の利用実績」、協議事項としまして「i-タクシー停留所等の一部見直し案について」と「i-バス尾西北コース 尾西運動場開明公民館停留所位置の変更案について」となっております。それでは報告事項から始めていきたいと思いますので、事務局から資料の説明をよろしくお願いします。

事務局

<資料説明>

会長

ありがとうございました。今事務局のほうから報告を受けましたけれども、委員の皆さん方、それぞれ資料1・2・3のところでご疑問・ご意見がございましたらお受けしたいと思います。

名鉄バスさんも含めて全体的には数字等を見ますとある程度横ばいという状態ですが、

先ほど尾西北コースについて若干減少気味であると、これは病院などへ繋がらなくなったということが要因であると。ふれあいバスのほうでいうと萩原について若干減少が見受けられるという状況ですが、これも多分ニコニコふれあいバスについては、一時的なものではないかというふうに思っております。昨年までは秋のシーズンだとか行楽と繋がって市内地区を巡るようなコースがあったかと思いますが、今年はそれを中止したとかそんなことも理由の1つになっているのではないかと思っておりますが、全体的には横ばいの数字で済んでいる。もちろんこのためには周知徹底をさらに図っていく必要があるかと思っております。そんな感触を持ちますけれども、皆様方からご意見がございましたら、お受けしたいと思っております。

委員

先回ですけど、尾西北コースが減少して南コースは増えているけれども、それは南コースの方へ北コースの人が移っているんじゃないかというお話をいただいたと思います。それが私は個人的にはそんなに南コースへ簡単にお客さんが移るものかと不思議ではあったんです。今のご説明いただいた中で、記念病院に行かないのが南コースではカバーできていないんじゃないかというところは、やっぱりそう簡単にはカバーできるものではないかと思っております。

それとタクシーのところでも出てくるとは思うんですけど、タクシーを使っただくことによって公共交通に繋いでということですが、資料3のところ尾西ですと特に起のバス路線のコースが1,600人マイナスということですよ。1,600人のマイナスというのはそれほど気にしなくていいものなのではないでしょうか。そもそもバスを利用される方があまり極端に減るということは、i-タクシーを利用してそこへ繋げていろんなコースを走らせるのに、もとのバスの利用が減っているというのはどういうことかなとお尋ねします。

会長

数として例えば起が54万1,720人から54万1,520人ということだと思っております。確かにマイナス1,600人ですが、前年比でいうと99.7ということで0.3%という数字だとは思っているんですけど、この減少がi-タクシーとの兼ね合いまでは僕は考え過ぎかという気はしています。名鉄バスさんの方で何かありますか。

委員

このプラスマイナスで見ますと、江南団地が率としては一番大きいということですが、こちらは利用の減がはっきり見られるというような分析はしております。他の所はおそらく天気もしくは曜日配列の影響も受けますのでその誤差の範囲かと。当然大きな傾向というのは減少ではあるんですけども、愛知県内で見ますと東部ほどではないんですが西部地域についても、特にこの一宮近郊については比較的悪くない利用の状況が続いておりますので、その基調の中で曜日変動等や天候があつてこういうふうにはプラスマイナスに振れてしまうという部分があるかと思えます。

iーバスやiータクシーの機能分担なんですけど、そこら辺につきましてはこういう公共交通会議等で役割の分担等をはっきりと色々とお話をさせていただいておりますので、特に影響等はないし、言えるようなものではないかと思っております。

会長

事務局側で先ほどの質問に対して説明ございましたらお願いします。

事務局

iーバス尾西北コースの減少についてご質問があつたかと思えます。前回北コースの方が南コースに移っているのではないかと回答したこともございます。昨年来から委員をやっていただいている方はご存じかと思うのですが、尾西北コースは平成27年10月にコース変更させていただきました。コース変更をする際には2カ年にわたりまして、尾西地域の皆さんでいろいろ検討していただいたわけでありまして。従来65分で1周していたバスが1時間に1本の分かりやすい60分のダイヤにしようとか、あるいは北コースと南コースで被っている地域があるのでそれをやめて、尾西庁舎を結節点として北と南を分けよう、そういった議論がなされてきました。60分に1本ということは、iーバス一宮コースにも乗り継げるので便利になるのではないかという想定でやっていたのですが、尾西北コースは落ちているのが現状です。

それで尾西北コースが若干落ちるとするのは想定していました。と申しますのは起連区という連区があるのですが、そちらの地域を通らなくなった。当然循環で65分だったものをピストンで60分にするとコースが減るものですから、起連区で月に100人程度乗っていただいていたので、その方が少なくなると想像していたんですが、その分尾西南コースに乗り継ぎができる。尾西北コースに乗っていただいて、尾西庁舎で乗り換えて尾西

記念病院へ行けますので、その分だけ南コースが増えるんじゃないかと想定はしていたのですが、月に大体尾西北コースで600人程減っています。南コースは400人程増えています。その差が200人です。私どもの想定ではこれが逆にならないといけないと思っていたのですが、現状こういうふうになっております。

地域の皆さんで一生懸命考えていただいたコースですので、一度こういった結果を来月尾西地域の皆様とお話しする機会がございますので、昨年10月に変更してちょうど来月で1年経つので、こういった現状がありますので、例えば北コースを90分に1本にして全便を南コースに乗り継げるようにしていくとか、そういったことを今後の協議にしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

会長

それでは今の話では来月尾西の起連区を含めた方々と協議されるということによろしいですか。

事務局

利用者数の報告と1年経ってこうなりましたということを全尾西地域の皆様とお話をする機会を設けておりますので、報告させていただきたいと思っております。

会長

その折にはこの結果を受けて地元の方々がどういうご意見であるとか、どういう要望があるとかということも多分出てくると思いますので、この会議で報告することがあったらぜひ報告いただければと思います。

事務局

先ほど申し上げなかったのですが、減っていたものですから実際私がバスに乗ってアンケートさせていただきました。やはり北コースから南コースは現状3時間に1本しか乗り継ぎができないんです。60分と90分ですので接続が3本に1本です。あなたたちは3本に1本乗り継げるからいいと言うが実際病院に通っている私達にしたらそんな不便なことはないと、だから行きは乗っても帰りはタクシーだと厳しいご意見を頂戴しておりますので、その辺を一度地元の方にお話をすべきかと思っております。

会長

わかりました。その辺も含めて将来的には今の時間であるとかコースのことも含めて大いに検討しなくてはいけない問題ではないかと思っております。加藤先生何かありますか。

副会長

全体的に見解を述べます。資料3で見えていくと起線の話が出ましたが、これは近藤委員がおっしゃったとおり、この程度であればほとんど横ばいと考えていいと思います。むしろ、宮田であるとか江南団地の方が目立つ。江南団地は特に目立つということで、どうなのかなというところですね。逆にイオン・木曾川線は増えてくるとずっと思っていましたけど、順調に増えているということで、ですがまだ少ないと思っていまして、本来は一宮コースと同じくらいまで増えるんじゃないかと考えている。あと数年くらいはきちんと周知していけば増えてくるものじゃないかと思えます。これは地域間幹線でもありますので、きちんと育てていく必要がある路線だと考えます。

それから、尾西北コースが非常に話題になるわけですが、これは今も議論になりましたけど、尾西記念病院に行きやすくすることを捨てて、一宮コースに乗り継ぐほうを取ったということ。起付近を通らなくした、このことでマイナス要因とプラス要因があるんですが、一番気になるのは元々ずっとやってきた一宮コースと尾西北コースの乗り継ぎというのが、65分と60分になったことでずれたわけですが、これが60分に1本になったことで、どれくらい戻ったのかと検証される必要があるんですが、そこは乗り継ぎがどうなっているのかというのはデータを出していただきたい。それから起の辺りで通らなくなった人達というのは、今までどういう所へ行っていて行けなくなったのでどうされたかということが、その連区で調査される必要があるのではないかと。言ってみれば起の場合は名鉄バスがある所なので、それをうまく活用できないかということもあるわけです。と言っても、今まで直通で行けた所が行けなくなるということになるので、そういう所へ行っていた人がもう出控えになったのか、タクシーになったのか何をどういうふうに動かされたかというのは把握していく必要があるかと思えます。

尾西南についてはルートを良くしたので、しかも元々尾西庁舎辺りから記念病院へ行く方は北コースも使えたのが南だけになった。ここは、そっちに乗り替わったということですが、やはり90分ということで60分ヘッドの北コースと合わない。なので3本に1本という話になる。これも最初から分かっていたことですが、これを解消しようとするともう1台入れないといけないということですので、じゃあもう1台入れるほどの投資ができ

るのかどうかというのは、よく考えないといけないということになります。少なくとも北コースから南コースへ乗り継ぐ、あるいはその逆というのはどの便が乗り継ぎやすいかというのは、例えば停留所であるとか、今日尾西北コースの時刻表が配られていますけど、これ見ても分からない。せめてこういう所にどれが乗り継げるかというのを書いてもらいたい。それから乗り継げないとしても、尾西の庁舎で30分時間を潰せば乗れるということですが、その30分時間を潰すということについて何かチラシで提案するとか、30分空くんですけどその代わり庁舎のできるの、この30分ゆとり持って行きませんかという話。当然尾西庁舎というのは尾張中島もそうですけど、一宮方面には頻発しているわけなので、そのことのPRもしなきゃいけない。いろんなことができるはずなんですけど、これだけ見ていると結局乗り継ぎがどうか言っているんですが、乗り継ぎがどうやったらできるかということは何も書いていないので、そういうことを言ってるんだったら、これはここでこういうふうに乗り継ぎをして、この便だったら乗り継げますよ、そういうのはきちんと書いてかなきゃいけないというのはできてないということだと思います。

最後にニコニコふれあいバス、これは深刻に考えなきゃいけないと思っていて、24年からずっと見ていくと26・27年でほとんど平行、28年で大きな減。特に何も無いのに大きな減というのは今までは新しい利用の方が出てきていたのに出てこなくなって、今まで使っていた方が大きく利用しなくなる。もしかするとヘビーユーザーの方が使わなくなったということであれば、例えば毎日乗っていれば年間で200日乗れば400回ですので、その分減るだけでも全体で50,000とかなんでそのくらい減っちゃう、1%くらい減っちゃうというケースなんですよ。そういう方が何人かおられる結果なのかもしれない。そうであるとすれば、あまり深刻でないというか、利用されている実際的人数がそんなに減ってなければ合計が少なくなってもそう深刻じゃないと思います。そうでなくて、1年に1回とか2回使う方が大きく減っているとすれば、かなり深刻に考えなければいけない。そこは調べていただけるといいなと。さっき期間従業員の話が出ましたが、そういう方であったら、そういう方が1人辞めて利用しなくなった、これだったら痛い話じゃないと思っています。その意味で本当の意味で客離れが起こっているのかいないのかというのは、ちょっと地域で考えていただきたいことですし、そろそろ努力しなくても新しいお客さんが着いてくる時期は終わって、これからは新しいお客さんが乗っていただける地域とか、市全体で何をすべきかという時期に——通常は3・4年くらいで入ってくるんですが、ここは10年くらいで入ってきたということで、すごく幸せな時代が続きましたけど、これから本格的に維持する時代が始まるということなので、そういうフェ

ーズにギアを切り替えて行くということかと思えます。以上です。

会長

加藤先生が言われたことを含めて事務局の方でよくご検討いただければというふうに思っています。それでは1番目の報告事項については以上で終わりたいと思います。

続きまして協議事項の1番目の議題、「i-タクシー停留所等の一部見直し案について」に移ります。初めに7月1日よりi-タクシーの試行運行が開始され、3カ月弱が経過しようとしております。この後の協議事項に密接に関連してきますので、協議に入る前にこれまでの利用状況についてどのような利用状況になっているのか、同様の事業を実施されている近隣の市町村自治体の状況等も分かれば、それらを交えて事務局から報告をお願いしたいと思います。まだ運行が開始されて3カ月弱、課題や見直すべき点も出てきているかと思えます。今回の試行運行においては利用者に対してのアンケート調査も行ってみえたと聞いています。そのアンケート結果の報告と関係する連区の方々、あるいは市に電話等で意見が寄せられているかと思えます。そうした意見とか要望があればそれについても合わせて事務局から報告をお願いしたいと思います。それでは事務局よろしくお願いたします。

事務局

<資料説明>

会長

ありがとうございました。結果としてアンケート調査があつて、それについての利用者の声の克明に出てきている。またその中で要望なども出てきておりました。それと同時に利用した結果の感想が後ろのほうにまとめられておりました。概ね良好的な意見が多かったかと思えます。いろんな見方がありますが、そんな感触を持ちました。もう少しバス停を増やしてほしいということもあつたかと思えます。また市民からの意見も寄せられていたという報告もございました。そのような報告を受けたところで、まだ議題に入っておりませんが、アンケート結果であるとか市民からの要望を受けた形で皆様方からご意見等があつたらお受けしたいと思えますが、いかがでしょうか。今のアンケート結果やご意見を見られた結果、どんな感触であるかということがあれば、開現さんご意見ありませんか。

委員

個人の生活パターンは全員違うので、希望する生活パターンは人それぞれ百人百様ですから、全ての人を満足させるというのはとても無理なことだと思うんですけども、アンケート結果全体から見ると、私としてはいい方向じゃないかと漫然と思いました。

委員

私は木曾川ですけど、木曾川は八幡・門間がありますがゼロなんです。ということは地域の人が知ってみえるかなということです。会議などではどうですか。

事務局

先ほども説明させていただいたと思うのですが、運行開始前と今回の広報配布に合わせて、本日お手元にありますチラシを該当町内全戸に配布させていただいております。そちらをご覧くださいればご承知いただけるかと考えております。

委員

木曾川は一番 i バスなどが使いにくい所なので、ぜひ使っていただくように PR してください。

事務局

そういったご意見もありまして、今回の議題にもあるんですが、木曾川につきましてはいただいたご意見をもとに、停留所の変更について皆さんにご協議をお願いしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

副会長

まず数字をどう見るかというのを考えなきゃいけないんですが、先ほどの資料 3 を見ていただいたら、一宮市内のバス路線利用者数が年間 200 万人いるわけです。今議論する i タクシーというのは、それに比べて何%かということを考えていただかなきゃいけない。200 万人ということは月にすると十数万人ですね。i タクシーは数十人の議論をしている。さっき誤差という話が出ましたが、起の 1,600 人の減が誤差だとすれば、その数十人というのは誤差のさらに誤差だと、そこを議論する。私は正直言うと、一宮のこの会議でそういうことを議論するのがどのくらい意味があるのか疑問に思います。つまり

90人とか70人の20人増えたとか減ったという、そんなことに一喜一憂することはほとんど意味がないことですので、そんなことよりニコニコが2,000人減ったというこの方が何十倍も深刻ですので、これは考えていただきたいということです。

その上でi-タクシーというのは何なのか、資料4-3に出ていますけど私は○△×をつけました。何かというと、○はすぐできるのにやってないこと。△はやるべきところとやらなくていいところがある。×はやらなくていいこと。その3つが大体均等にあるんですが、つまり×をつけるのは、例えば一宮駅まで行くとか行き先を任意、これ多分タクシーを言っていますよね。タクシーは一宮にはあるわけですので十分、それをどうして補助金を出して安くしてやらなきゃいけないのかというのは考えていただかないといけない。もちろんもっとタクシーを使いやすくするために、助成措置をやって安くするとかいろんなことはあり得ますけれど、典型は蒲郡の3割引きですが、そのことによってどのくらいお金が沢山必要になったか、見直しを蒲郡はやっておられるということです。

そういうことを踏まえたときに、本当にそういう施策がいいのかどうかということを、一宮の場合にも考えた結果としては、ある程度のところは路線バスとかi-バス、もちろん鉄道もあります。そういうところでカバーをし、そこでカバーできないフィーダーの端末の部分についてはこのi-タクシーを入れるけど、多分タクシーという言葉を使うことが問題だと思いますけど、タクシーじゃなくこれはバスだと。許可もタクシーの許可じゃなくて乗り合いバスの許可、これが通常だとバスではとても一般のサービスできないような利用の少ないところ、あるいはかけ離れた所であっても一宮のありとあらゆる所で使えるようにするためにちょっと延ばしている、そういう存在であるということを考えたら、この自宅まで迎えに来てくれるとかあり得ない。あり得ないんですが、そのところがご理解いただいていないので、それはタクシーがあるでしょとお答えすればいいんですが、安いタクシーがi-タクシーだと考えていただくと、これはとんでもない間違いですよ、ここは理解しておかなきゃいけないところです。

一方で時間が分からないとか、どこに停留所があるかというのは、逆に周知をきちんとしていけないといけないことで、今チラシを配布しているとおっしゃいますけど、チラシを配布して読む人がどのくらいいるのかというのは、過去何十年もそんなものはほとんど読みませんということで終わりですので、そんなことを会議で言うこと自体無駄ですよ。読まないことを前提で読むとか読まないじゃなく分かっていたかということ議論するので、どうやったらうちの地域はバスの停留所はなかったけど、バスの停留所みたいなのが、呼ばないと来ないけどできました、出城みたいなのができましたということをご理解

いただくという、それぞれの所でやっていただくというのを徹底してやらないといけないということです。それができていないので利用されている方、されていない方にそういう意見が出ましたということです。

私はこだわっているんですが、病院等の施設へ行くようにしてほしいとか、接続するバス停留所を変更してほしいという。これはこのi-タクシーの検討から言っているんですが、今西尾と稲沢の話が出ました。稲沢は首になりましたが以前にやっていたし、西尾は今もやっていますので、私がやっているからやっていると思われると困るんですが、あんまり個人的には好きな仕組みじゃないので、傾向は明らかでして、あとはみよし市、武豊町が同じ様なことをやっています。今調べましたら武豊は月70人、みよしは月4人という結果ですが、それぞれに西尾と稲沢を合わせまして、利用が多い所は明らかでして、施設がある所です、結局。何にもなくてバス停だけが接続するというのは非常に少ない。理由はその施設があれば、その施設に行く利用にも使えること。それからその施設があることによって待ちやすいということ、この2点があります。なので基本は何らかの待てる施設がある所にこういう接続停留所を置くということなんです、そうでない所が多いので、ここは考えていかなきゃいけないことかと思えます。そうするとちょっと距離が長くなる可能性がある。距離が長くなると経費が増えるかと思いきや、これはタクシー会社さんに聞いた方がいいですが、どうせここまで回送してくると考えたら、本当に経費が高くなるのかということがある場合もあります。一番いいのはタクシー会社的には接続停留所はタクシーの営業所がある所がいいということになるんですが。タクシーの営業所が行きたい所かどうかはまた違うので、この辺も吟味してやっていかなければいけない。

先ほど資料5-1・5-2は後の議論でいいと申し上げたのは、この変更というのが私が今申し上げているそういう話と直接繋がらないからそう申し上げたということです。一朝一夕にはできないですけど、あるいは岐阜市さんがやっているように接続の所にはミニバスターミナルみたいな、トランジットセンターみたいなものを設けるといふかなり土木的なことをやっていくと。そういう大きなことになるかもしれませんが、コンビニくらいでもいいといろいろ考えられますが、今の段階ではそれはやってなくて、近い停留所に行くということです、ほどほどに近い所だけでも、ここ自体もなんか用事があるとか、待ちやすいという所に少しずつシフトしていかなければいけないんじゃないかというのが私の一環した考えです、今までずっと何個の都市で自分もやってきて、あるいは他の皆さんもやられたことの厳然たる結果で、一宮市は後からやっているの、そこは勉強してやられた方がいいんじゃないかと思えます。

最後の資料3に数字として出てくるぐらい乗らなきゃいけないことなんで、今から1桁以上多くないとだめで、そんな数十人の増減なんてそのレベルで考えてちゃだめです。数年後には数百人とか千数百人になるようにという、ここを目標にしていかなければいけないと思っていますので、今多い少ないというのははっきり言ってどうでもいいことかと、もう1回繰り返しておきたい。むしろ使いたいと思っている潜在的な方が使っておられるか、使う気になるか、全く知らないか、あるいは本当はタクシーとかを使っていたきたい方が勘違いをしているのか、そういうところをもうちょっと精査する必要があるんじゃないかと思っています。何か誤解があるところがあれば事務局から説明していただけるとありがたい。

事務局

いろいろご意見いただきましてありがとうございます。先生おっしゃるように施設のほうに接続するというのが、望ましいんじゃないかというお考えの半面、今回i-タクシーの試行運行をさせていただいているのが、バスの利用促進というのを第一に置いておりますので、今後試行運行を重ねていく中で来年度どうするかということも含めまして、そういったことも検討しながら進めて参りたいと思います。

副会長

バスの利用促進であれば数十人では話にならないということを言っています。それからバスの利用促進のために乗り継ぎを促進しようと思うのがこれですけど、そのためには従来の経験からいうと、そんな大きな病院じゃなくていいですよ、コンビニだとか公民館だとか——公民館でも鍵が掛かっている公民館はだめで、中に入って待てるような所でないと乗り継ぎはほとんどしてもらえないというのが従来の結果です。そうでなくて、どうしても乗り継ぎをしてもらおうけど、施設がなければタクシーをその後ろだとか横に着けるとか、全国的にはそういう所もあるわけです。バスが着くとその歩道にタクシーが乗り上げてきて、タクシーがバスの出口にぴったりと扉を開けて待っている。そういう所もあるわけですよ。人間はそういうもんでしょ。そうじゃなくて関係ない所で停まっていたら、誰も使わないじゃないですか。そういう工夫を現場はするわけですよ。そこをちゃんと考えないと、やらないで単にチラシ配ったから乗らない方が悪いみたいな、そういうのは全くおかしいことじゃないかと思います。やはり大事なのはそういうのがあったらいい、使いたいのはそんなに滅多にないことですけど、ああそういうのがあったらいい

いと思ったら、ぱっと引き出して使える体制を作っておくことが大事なので、そこはきちんと考えていただかないと、とても資料3の数が増えてくるというようにいかないという。資料3を意識してください。資料3を意識しなければ資料4-1を見てもほとんど意味がない話ですよ。

会長

もう1つ今思ったところが、i-タクシー月別停留所の集計表を出してもらったんですが、考えたら西成から丹陽・浅井・大和・今伊勢というように9連区あります。そのところに葉栗の場合には田所公民館であるとか、その関係する町内・周辺に先ほどのチラシだけではなくて、その町会長様であるとか町区民が集まるような機会があればその市民の方々に、やっているとは思いますがもっと具体的に全ての方とは言いませんが、情報が入るような形でのPRと言いますか、周知徹底というようなことをもっともっとやっていく必要があるのではないかと。先ほど加藤先生が将来的には1,000人という数字も出されましたけど、80人・90人で一喜一憂するんじゃなくて、これが来年は300人くらいとか500人くらいいくとか、そういう目標を持ってやっていくためにはもっともっと周知徹底を図っていく必要があるだろうと、だからチラシだけではなくて他の方法をもっともっと考えて、地区住民にいかにか知らしめるかということをやっていく必要があるんじゃないかと。

もちろん今後こうした利用者の意見を聞くことも大事ですから、時々アンケートも必要であると思いますが、その周知徹底。先ほど木曾川の場合の話が出ましたけれども、その木曾川の場合でも門間と八幡の周辺というのは、もっともっと知らしめるというのが必要ではないかと思うものですから、将来的には夢とは言いませんがもっと利用者を増やすということを事務局のほうでご検討いただけないかと思う次第です。

副会長

具体的に何やったらいいかと言わないと無責任ですので、一例を言いますと、私がやっているある町ですと世話人制度というのを作っています。予約で来てくれる乗り合いタクシーみたいなものについて、各地区で住民の中で世話人を作っておいて、わからないことはその方に聞く仕組み。市役所に連絡するとこれはそれぞれのところの話なので、それよりその地区の方にできればたまに利用される方がいいんですが、そういう方を一人ずつ立てていくというのがいい。

それからもう1つはこれも地道でいいんで、順番にやっていくといいんです。実際の乗車体験、これをやるというのが大事だと思っています。そのときには電話を掛けてもらうとか、そこから実際にやってもらって使ってもらう。乗合ですのでタクシーの座席の数だけ座れるでしょ、それでみんなに乗ってその中で市役所の職員の方も乗っていただいて、こうなった方がいいよねとか、そのときに聞く話が一番役に立つ話。逆にそのときに誤解とかがあれば、こういう趣旨なんで面倒ですけど申し訳ないけど使ってくださいとか、これだったらもう少しできるかもしれない。これをやっていかないと、どれだけチラシなんか配っても全く意味がありません。デマンドとかフィーダータクシーとか、利用が多いところはそういうのを地道にやっています。順番にやっていけばいいし、例えばそれぞれの停留所の近くで説明会をやってほしいと要望があれば、そこへ出かけて行くとか。そういうのってやってないでしょ、まだ。そういうのをやらないと出てこないですよ。

会長

その辺も含め市役所がご検討いただければと思いますが、現在あるのは10連区33か所について、先ほどのアンケート結果等を含めて今から協議第1番目の議題「i-タクシー停留所等の一部見直し案について」に移っていきたいと思います。この一部見直しの件と次の「i-バス尾西北コース尾西運動場開明公民館停留所位置の変更案について」は道路交通法に基づく協議となりますので、協議の後みなさんの合意が必要となりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

今回「i-タクシー停留所等の一部見直し」ということですが、今まで1コースだけであったものが場所によって別の停留所を設けて別の路線にも乗れるようにして、少しでも利用者の利便性を図りたいという提案かと思っております。それではまず、「i-タクシー停留所等の一部見直し」ということで事務局から説明をお願いしたいと思います。

事務局

<資料説明>

会長

申し訳ないが、資料5-2を5-1の図面と合わせながら、例えば5-2の1枚目の北小湊公民館の資料と大赤見停留所の辺りの部分をもうちょっと、それと2枚目、さらには後ろから2枚の名鉄バス馬寄停留所、その辺の説明を具体的にもう少ししてもらえないか

な、そうしないと多分お分かりにくいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

事務局

まず北小湊公民館でございますが、先ほど申し上げましたように左側の変更前に平日・土休日の往路・復路といったことで1便から10便まで時刻表が書いてございます。変更後の右側につきましては上の段が同じバス停留所ということで、特に変更にはなっておりません。時刻についても同様でございます。その下の千秋ふれあいバス、大赤見停留所といったものが今回接続先として追加をさせていただく部分ということになってございますが、こちらの方につきましては、北小湊公民館から直接大赤見停留所へ行くということで、こちらはちょっと便数が少ないので1日6便ということで、往路・復路ともに示させていただいている形になってございます。

次の南小湊停留所につきましても同様の考え方で、時刻表をお示しさせていただいております。

朝日の部分ですが、こちらは変更前のものが左側でお示しをさせていただいております。変更後の上段は接続先として朝日東小学校ということで同じですが、左側が今までは尾西庁舎方面ということになっておりましたが、今回の見直しに伴いましてこちらを萩原駅行きとさせていただく関係で、一部時刻の方が変更になっております。変更させていただいているのが時刻の部分だけになりますので、勘違いされやすいかもしれませんが、こちらは接続先としては同じですが、運行の時刻としては変更されています。

下の尾西南部生涯学習センター停留所につきましては、今回追加するというので、今までと同じ方面、尾西庁舎方面を向けさせていただいて、双方に行けるような形で追加をさせていただくということを示させていただいております。朝日の4か所につきましては同様の考え方によりますので、ともに同じような時刻表の内容になっています。

最後に木曾川でございますが、こちらにつきましては最初に申し上げた西成地区と同様に、変更後の上段につきましては従来のものをそのままお載せする形、下につきましては今回接続する馬寄停留所のバスの接続に合わせた時刻表ということで、新たに追加させていただいたという部分でございます。

会長

事務局ありがとうございました。中々頭に入りそうで入らないところも若干あるかと思ひますけれども、まずこの「i-タクシー停留所等の一部見直し案について」警察及び道路

管理者委員さんからご意見をいただきたいと思います。その後皆さん方にご意見を伺おうと思いますが、初めに警察委員の加藤委員様よろしく願いしたと思います。

委員

そういう点については問題ないと考えております。いつもお話しするように高齢ドライバーが事故を起こしてみえるという現実もありますし、こういう公共交通機関としてさらに使えるようみんなが利用できるようになっていくことが、私達の望みですのでいろいろ検討いただきながらさらに使えるようなものにしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

会長

どうもありがとうございました。それでは県道を管理しております県一宮建設事務所維持管理課の向原様よろしく願いいたします。

委員

道路管理者としましては、やはりバス停の標識の設置場所が県道にかかっておらなければ基本的に問題ないと考えております。民地に置いていただくような話を聞いておりました、道路の敷地内に入らないというふうに聞いておりますけれども、それが動いてしまって道路の方にはみ出したりするようなことがないようにお気を付けいただきたいということと、時刻表がありますから車が長時間同じ場所に停まっているようなことは多分ないと思うんですけど、交通の支障とならないように長時間停車はないようお願いしたいと思っておりますのでお願いします。以上です。

会長

どうもありがとうございました。それでは次に市道を管理されております、市建設部道水路管理課の岩田委員様よろしく願いいたします。

委員

追加と言いますのは、元々あった停留所をそのまま利用するということですので何ら変わりがないと、アクセスする場所がもう1か所増えたという話ですので、我々道水路管理者としても支障はないというふうと考えております。

質問よろしいですか。先ほど先生が言われた i タクシーの停留所なのか結節点なのか、要は施設で時間が潰せるような所を考えたらどうかということと言われたんですが、その辺が私は今一つ。 i タクシーは以前近藤委員さんが何百メートル以内の人は利用しないよということで、空白地帯にこういう i タクシーを設けて一番近いバス停まで引き継ぐというようなことを考えていただいた話の中で、先生が言われた i タクシーが施設に行くということが、私どういう意味なのか今一つ分からなかったところがありますので、その辺ちょっと教えていただければと思うんですが。

副会長

W i f i が使えるとストリートビューが使えるので、今全部の停留所をどういう状況か見ていました。例えば尾西南部生涯学習センター、これは当然施設なのでここで待つことも可能。近くに名鉄の江端のバス停がありますけれども、これは道端で路肩もなく、こんな所で待っていたら例えば今日は雨そんなに降ってないですが、雨が降っていたら撥ねかけられるとかそういう世界ですね。だから実際待ったことがある方であればどっちに待った方がいいのか、どこだと乗り継ぎやすいかというのは明らかだと思うんですが、そういう話です。そうでないとすれば、例えばバスに乗り継ぐのであればタクシーの中で待っていて、バスが来たらタクシーから降りて乗り継ぐ。あるいはバスが着いたらタクシーがいてぱっと乗り継げる、できればそこに屋根があった方がいい。というのは利用されれば誰でも分かることだと思うわけですよ。だから僕が気にしているのは、利用されない状態でいろいろ空想してもあまり意味がなく、先ほどの乗車体験会みたいなものをやるとかすれば、そういうのはあった方がいいよねということが出てくる中で、これだったら利用できるというのが出てくるんじゃないでしょうかということを行っているわけです。

会長

それでは今から協議題の 1、 i タクシー停留所等の一部見直し案について皆さん方のご意見を承りたいと思います。あくまでも西成では千秋ふれあいバスの大赤見バス停と連携するという形で今までに 1 つ増えたということ。それから、朝日については名鉄バスさんの萩原駅へ行くバスが増えたということ。それから、木曽川町では今までの i バス木曽川コースの木曽川体育館以外で、名鉄バスさんの馬寄のバス停で乗れるようにしたということが大きな変更点かと思います。そのことについてそれぞれ皆様方のご意見等がございましたら承りたいと思います。よろしく願いいたします。

運行開始から2カ月と二十何日経って3カ月弱ということですが、そうした中で少しでも地区の方々のニーズに、ただ一方の路線だけじゃなくて路線によってはもう一方の名鉄バスさんであるとか他の路線であるとか、そういう利用をされるような方もみえるだろうという意味合いでそれぞれの地区について見直しを図って、少しでも皆さん方の利用がしやすいようにという提案であるということです。これがまだまだアンケートの結果が全てであるとは限りませんが、少しずつでも皆さん方の要望に答えていくということも大事ではないかと思うところがあるものですから、その辺のところでご意見等があればということですが、老人クラブの加藤様何かご意見ございますか。

委員

高齢者が一番困るのはトイレの問題なんです。待ち時間にどうしてもトイレに行きたい。今の朝日東小学校の所はトイレがありません。今度新しくできる尾西南部公民館には立派なトイレがあります。1分で歩けますがそれもやっぱり考えていただくということ。屋根のことももちろんですが、高齢者はどうしてもトイレが近いということを思って、南部公民館に停まるのは素晴らしいことだと思いました。

会長

確かにトイレは大事なことですよね。

委員

高齢者というのは外に出たがらないんですね。今日の資料の中で外へ出るということがございましたけど、引きこもりばかりで家からいかに外に出すか、お出かけ広場だとか何とかサロンだとか、一生懸命市の高年福祉課が考えてやってくださるが、実際は歩けないです。歩く力のない人達は外へ出られない。そういう人達が出られる、生活不便者で買い物や病院へ行くだけじゃなくて、そういう外へ出られない高齢者を引っ張り出す手段として、僕は非常に素晴らしいことだと思います。どんなPRをされるかということで加藤先生の方からもお話があったんですが、通院やショッピングじゃなくてそういう人達も出てもらえるような、タクシーに乗ってバスに乗り換えてそんなPRもしていただけたらと、私のお願いですが、年寄りのお願いです。

会長

貴重な意見ありがとうございました。近藤さん何か一言ありませんか。

委員

私は丹陽なので丹陽のことしか頭にないわけで申し訳ない。丹陽に限って話しますと、この間 i タクシーができたということを吹聴しているわけですが、1つの意見としまして、自分の家から公民館へ行くのに時間が掛かってしまうから、公民館へ来てもらっても無駄だよねという話です。バス停まで歩いた方が早いという人もあるし、もう1つは帰りに限っては買い物してから1時間前に電話しておいて、バスが着く時間までバス停へ迎えに来てくれという、その判断がなかなか難しいと。行きはいいとしても帰りはという話です。そういうことをいろいろ考えますと、やはり皆様ご承知だけど、i タクシーというのは丹陽に限っては数字は出ていますよ。多加木の方も5人は乗ってみえる。だけど実際これやる価値があるのかと、悪いこといいますとね。

それからもう1件、バスが往復で帰っておりますが、ループにさせていただくと面白いという意見があるんです。要するに九日市場までバスが来るとそのまま同じルートを帰っていきます。バスを運行される方にとっては非常にいいですね、どちらでも乗れる。ループにすると一方通行で回るのは時間が掛かりすぎるだろうと。逆ルートもあるだろうけど、なるべく丹陽の場合はループにさせていただけたら。丹陽出張所の前を多加木から下りてきて出張所の前を通して、今度は東三ツ井に入って伝法寺に入って、22号線を北上させてこういうルートを作っていただけたらいい。1時間に1本じゃなくても2時間に1本を1時間ずつ交互に回していただけたらどうだ、という意見も地元から出ておりましたのでここでご報告させていただきます。

今後やはり地域の活性というのは、お年寄りがどんどん増えて丹陽に限っても、車を2台も3台も持っているというのもなかなか難しい時代に入っていますから、公共の交通機関がどうしても必要だ。それにはやはりバスということを考えまして、うちは北名古屋が近いものですから、北名古屋へいきますと小さいバスが絶えず走っている。ですからあの様に網羅していただけたら本当に一宮市に住んで良かったなという方達が増えてくるんじゃないかと私は思います。地域の役員会を開いたときに出た要望でございました。ここで披露しておきます。

会長

ありがとうございました。i タクシーで言うと実は行きの便と帰りの便が数字を見る

と、大体3分の1くらい減るという傾向にあります。これは仕事が終わったとか、用が終わってからなかなか連絡が大変だとかいうようなこと、あるいは一人だけになってしまうことが重なって、結果として今のところ利用が少ないということにあるのかということなのですが、これももう1つの課題として、帰りの便ももう少し増やすような方策というか、帰りも利用できますということをもっともっと周知徹底する必要があるだろうと。

もう1つの件に関しては全体的な要望ということで承って参りますので、よろしく願いしたいと思います。

それから、地域女性の団体連絡会の加藤様よろしく申し上げます。

委員

私達は女性の会をやっておりますけれど、平均年齢が70歳以上です。今、加藤先生から言われた、もっとわかりやすい説明を地域でやってくださると、i-タクシーはもっと浸透すると思うんですよ。講座に来てくださる会員のみなさまに聞いたことはないんですが、i-タクシーがあるということを知っているのかなと思うんです。

起のバス停にi-バスがなくなりました。ついこの間敬老会がありまして、i-バスを使って市役所の近くのスーパーへ行ったり元気にお出掛けしてみえた方が、敬老会でお会いしたら、もう全然歩けなくなってるんですよ。杖は突かなきゃいけないし車引っ張って、いつからそんなになっちゃったのと声を掛けたくらいびっくりしたんです。出ていかれないんです、バス停は近いんですけどもぐるっと回らなきゃいけないし。いろんな面でお出掛けにならなくなったと見ていたんですよ。

今のi-タクシーもどういうふうにご利用したらいいかご存じないと思うんです。特に女性の方は広報に挟んであっても見ない。中に何があるのかどういう物が入っているのか全く読まないんですよ。こういうことでも役所の方から説明に来てくださるチャンスがあれば、ぜひ利用させていただきたい、来ていただきたいと思っております。これからますます、今まで車に乗っていても乗れなくなる女性が多くなると思うんですよ。そういうときにどういうふうに使ったらいいか知識を持っていれば利用できるということを思いました。

会長

そういう意味合いではまだまだ市民への周知徹底が、具体的な部分で膝を交えてお話をすることが大事かと思えます。ただ、今回ご理解いただきたいのはあくまでもバス停から1kmを離れている不便な所の交通弱者の方達を少しでも救済しようというところ

ですので、その辺は全てのバス停にタクシーが来るとか思ってもらっては勘違いがないようにしていく必要があると思います。

そこで、今それぞれの意見を聞いたところですが、今回の変更案について基本的には少しでも利便を高めようというのですが、その辺のところも含めて加藤先生一言お願いします。

副会長

今ようやく全部チェックしまして、ここはそれぞれ駐車場が近くにあるとか、転回したり待ったりすることがある程度できる場所が選ばれていると思いました。江端の話をしましたけれども、尾西南部生涯学習センターの近くに江端があって、運賃を調べますと今だと朝日東小学校になっていますけれども、一宮とか尾西庁舎から来ても同じ運賃になっている。であれば尾西南部生涯学習センターに統一してもいいのかなと思いましたが、ここは本当に待ちにくい停留所になっているので、乗り継ぎを考えれば2つはやむを得ないのかなと思ったところです。本当だったら1つの方が分かりやすいので、となると名鉄バスの停留所が尾西南部生涯学習センターの前に来るといいよねとなるんですが、そうすると経路がまた余分になるのでこれも難しいだろうなということなんです。

となると、最終的にこの地区はどこかいい待てる停留所を江端の辺りに作っていかねければいけないよねというのが出てきて、これからの総合計画とかそういうことに活かされて行くということなんで、そういうアウトプットをしていかなければいつまで経っても路肩が狭い停留所だとか、トイレの話も私もうっかりしていましたが、トイレは非常に重要で、ある所がいいですよ、やっぱり。乗っちゃったら、もし途中でしたくなったら待たせて行くわけにもいかないという意味では重要な施設なわけですね。そういうところが乗り継ぎ点がいいよねという、そういうのは今この会議で議論したから出てきたことでしょう。こういうのをやっぱり踏まえて、実はそれはバスマップとかにもそういうトイレとか書いた方がいいというのはそういうことなんですよね。安心して待ったり乗り継いだりできる停留所だというふうになっている、そういうふうに進んでいきますよ。そういうのはやってほしいなと思います。

現状は資料5-2で上がっているのはこれでいいと思うんですけど、今改良点がいろいろ出ました。これは後退ではなく前進ですので問題ないと思いますけれども、この1歩前進というのを、今日のご意見も踏まえてもっといろんなところでどう改善できるかというのは言っていたきたい。出歩けなくなったというのも出ましたけど、やっぱりバスは既

に出歩けなくなっている方にとっては何ともならないものですが、今はまだ自分の力で歩ける方にとって、ちょっと遠いといっても歩いていただいて、その助けとしてこれもあって、最終的にバス停からバスに乗って一宮駅とかいろんな施設に行くことができる、乗り継いで行くことができる。おでかけバス手形であるとかいろんなものを使って出掛けられることで、そういうふうに分の足で外に出歩くことができなくなるのを少しでも後ろに繰り延べる、あるいは今そういうのが億劫だから車に乗っておられる方を、そのままととんでもない大事故を起こしたりするかもしれない、そういう方をそういうことから救うためにバスやこういうものに切り替えていただく、そういうことに全部繋がっていくことですので、そういう生活をするために例えばこういう手段がありますよという、そういうPRをきちんとやっていけるといいですよ。

あとは皆さんにご意見いただいたのですが、皆さんに出来ることがあって、こういうのがあるわけですが、これを自分でも腹に落ちるものに作り直していただいて、常に鞆に持っていていかにも乗りそうな人に配っていただく。これはやれることなんで、ご質問いただいたら市役所にお伝えして、もっとこういうふうにした方がこのチラシは分かりやすいよと、これを繰り返していただければ、さっき90人だとか70人と言っていたのが増えるでしょう。それをやっていくだけで増えると思うんですよ。そういう体制が必要なのかなと思いました。

あと1点確認したいんですけど、一宮はUDタクシーはどのくらい入っていますか。

委員

UDはほとんどないですね。尾張交通さんで日産の2台があるくらいです。

副会長

先日鳥取に行ってきました、鳥取はすでに数十台の単位で入っていて、普通に流しとかでもあって、今年100台入れるということで、これからそうなるんですけど、先駆けてUDタクシーにしていこうという動きがある。私もタクシー会社さんと話をしていたので、何回か乗ってみましたが非常に乗り降りしやすい。本当はこういう車がこれに相応しい。お金が掛かるんですけど考えていただけるといいなと。

委員

来年度以降トヨタさんも大々的にUDを入れますので、西部交通でも年間数十台ずつ入

れていく予定でありますので、今現在ではないんですが、来年以降はそういった車の実現していく、そういう方向です。

副会長

そうなるとういう本当に数分乗って降りることだから、乗り降りはずごく大事だし、それからバスではなかなか難しい、歩いて行くのも大変な方にとってはタクシーですから、そういう方はUDタクシーは非常に乗りやすくいいものです。UDはユニバーサルデザイン。ユニバーサルデザインなので、障害者・高齢者の方のものということではなくて、どんな方でも使いやすいという意味です。これも地域公共交通会議の議題の1つになることなので、鳥取で非常に感動しました。非常に使いやすいと思って。いろんな補助も得てどんどんやっていくとおっしゃっているようですので、よろしくお祈いします。

委員

基本的にどの車両でも車椅子をそのまま乗せることがUD制度で、ただ車両価格が高いものから、今市とか県とかいろんなところにある程度助成をしていただくようにお祈いしているんですけど、間違いなく来年以降はどんどん増えると思ひます。よろしくお祈いいたします。

会長

今回については見直しが西成であるとか、朝日であるとか木曾川町等に出てまいりました。先ほど加藤先生が言われたように、今後まだまだ実はそれ以外の所についてもいろいろ地域の住民からここと繋いでほしいとかそういう要望はまだまだ出てくるんじゃないかと。周知徹底する中でそういうことも出てくると思ひます。今回まず3カ月が経過しますけれども、予定では11月1日から変更ということをお祈いしておりますが、このi-タクシー停留所の一部見直し案ですが、これについてはこの会での合意が必要となります。皆さん方ご了承いただけますでしょうか。

(拍手)

この議題については合意していただいたということで、これで3つやったから全てというわけじゃありませんので、これからも改善変更をよろしくお祈いしたいと思ひます。

では次の協議事項に移りたいと思います。

続きまして2番目の議題「i-バス尾西北コース尾西運動場開明公民館停留所位置の変更案について」に入ります。それでは事務局よろしく願いいたします。

事務局

<事務局説明>

会長

それでは停留所変更に当たりまして警察委員の加藤委員様よろしく願いいたします。

委員

何度も申しますとおり、そこに人が集まる訳ですから、そこで事故が発生しない場所であること、そこに車が停まって事故が起きないことがバス停の基本的な考えかと思っておりますので、その点をクリアしていることについては、問題はないと思っております。

会長

どうもありがとうございました。これは地元の開明連区になると思いますけれども、公民館の停留所を、地元の要望ということでございますので、今までよりもっと公的な場所であるということでもありますので、そうした意味でこの変更案が出て参りましたが、これも実は合意が必要です。地元の要望ですので受けざるを得ないというふうに考えておりますが、皆様方合意でよろしいでしょうか。

(拍手)

運行地域の地元からの要請もあり停留所移設ということですので、尾西北コースの停留所移設については合意をいただいたということでよろしく願いいたします。

本日予定しておりました協議事項は以上で終わりますが、議題3のその他として事務局何かございますでしょうか。

事務局

本日はどうもありがとうございました。次回の会議ですが、皆様方お忙しい方ばかりで

申し訳ないですけれども、おそらく12月の終わり頃か年が明けた半ばまでの間に開催をさせていただくことを予定しておりますので、決まりましたらご案内をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

会長

国土交通省中部運輸局の愛知運輸支局の杉本様、ご意見があるということですのでよろしくお願いいたします。

委員

愛知運輸支局の杉本です。いろんな資料のご意見を出すところで、最終的には加藤先生に意見を言わせていただきましたのでなかったのですが、一つバスを考える中で、利便性いろんな面で安全面のところで事業者さんも考えていただいております。その中で今バス運転手の不足というのが深刻になってきております。バスを動かすためには運転手の方を確保していくということが大事でありまして、そういった中でタイムリーというわけじゃないですが、10月1日の土曜日にバス運転手に特化した形の就職説明会が名古屋市で行われるということになっています。それぞれの市のほうには私どものメールマガジンにてご案内をさせていただいておりますし、バス協会さんのほうも9月11日と13日に中日新聞でPRの記事も載せていただいております。

そういった意味でこういったところにもぜひこういったものがあるよということでご周知していただくとありがたいと思っていますし、バスの見直しに関しては私どものほうもいろんな面でサポートしていきたいと思いますが、やはり運転手さんの労働条件の関係とかそういったものも重要になってまいります。安全で安心なバス輸送というものを私どもも心がけてやっているところでございますので、そういった部分でもこちらの会議のほうでもそういったことを十分ご配慮いただきながらやっていただいていると思いますので、そういったところを合わせてお願いをしたいと思って発言をさせていただきました。ありがとうございました。

会長

どうもありがとうございました。最後に主宰者委員として市企画部長の熊沢委員から何かございましたらよろしくお願いいたします。

委員

企画部長の熊沢でございます。今日は本当に長時間にわたりまして熱心にご議論いただき、また様々なご意見をいただきまして本当にありがとうございました。今日ご協議いただきましたi-タクシーでございますけれども、ちょうど1年前から準備を始めましてこの7月に運行を開始したところでございます。まだまだ試行運行ということでございまして、皆さんから今日いただきましたご意見を参考に本実施に向けてこれからも努力を続けてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

またその他にも公共交通に関する課題が本当に沢山ございまして、私どもといたしましても1つずつ出来ることから解決に向けて努力してまいりたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。今日は本当にありがとうございました。

会長

熊沢委員どうもありがとうございました。本日は長時間にわたりましてご協議賜りまして誠にありがとうございました。皆さん方のご協力のもと本日の会議を終了させることができました。本当に長時間ありがとうございました。これで終了いたします。